



▲スイカをPRする生産者(右)

黒瀬スイカ好評 となりの農家黒瀬店で祭り

JA黒瀬支店ふれあい委員会と黒瀬アグリセンターは7月29日、産直市「となりの農家」黒瀬店でスイカ祭りを開きました。

た。地元で生産する「黒瀬スイカ」を生産者が対面で試食販売し、用意した500玉が3時間で完売する盛況ぶりでした。黒瀬町は、戦時中から戦後にかけてスイカの産地でした。JA黒瀬アグリセンターは、「黒瀬スイカ」を復活させようと生産者に呼び掛け、12年前から生産に取り組んでいます。今年は10人が「虎太郎」「味キララ」「紅こだま」「ピノガール」の4品種を約1000本栽培しました。

スイートコーン皮むき 大和認定こども園

福富町で原田農園を経営する原田賢志さんは7月19日、三原市大和町の大和認定こども園の79人にスイートコーン140本を贈りました。

食育を通して、農業に興味を持ってもらおうと企画。園児は皮むきを体験し、原田さんとJA大和アグリセンターの職員に教わりながら皮やひげをむいて試食しました。原田さんはスイートコーン「ピュアホワイトSP」を45aで1万5000本栽培しています。原田さんは「体験をきっかけ



▲原田さんに教わりながらスイートコーンの皮をむく園児

に、家庭でも野菜を作って食べてほしい」と話しました。

産地活性化へ 野菜振興協議会総会

広島中央地域野菜振興協議会は7月25日、東広島市で第20回通常総会を開きました。会員34人が参加。2023年度の活動計画や収支予算などを決め、産地の活性化などを申し合わせました。

本年度は、現地研修会や部会ごとの生産者大会を開くなど活動を活発にし、技術を標準化することで安定生産に取り組みます。また、JAや行政と連携し、新規就農者の受け入れ体制を充実させます。



▲あいさつをする河内会長

河内清人会長は「JAが広域合併し、生産者の仲間が増えた。スケールメリットを生かし、優位販売を目指したい」と話しました。

自信の桃出荷 大和町桃生産出荷組合

三原市大和町の大和町桃生産出荷組合は7月中旬から8月、特産の桃を出荷しました。長雨の影響で生育が心配されました



▲桃の品質を一つ一つチェックして化粧箱に詰めるJA職員

が、上々な仕上がりととなりました。JA全農のオンラインショップ「JAタウン」などで販売しました。同出荷組合は、「白鳳」「あかつき」など30種類以上を栽培しています。同町津久地区は、1957年に桃の栽培を開始。標高400mのなだらかな台地で昼夜の寒暖差が大きいため、実の締まりと味、日持ちが良いと評判です。部谷裕幸さんは「努力して作った桃を多くの人に味わってもらいたい」と自信を見せました。



水稲

登熟期〜収穫期の管理

◆登熟期

稲は出穂後、登熟期を迎えます。登熟とは穀物の種子が次第に発育・肥大することを言い、稲穂が出て、開花・受粉すると登熟を開始します。水稲の根は出穂期に最も多くなり、登熟期は徐々に活力のある根が減少していきます。

◆水管理

これまでは、間断灌水や中干しにより根の活力を上げる管理を行ってきましたが、これからは収穫まで根の活力を維持していく必要があります。さらにこの時期は、玄米肥大期を迎えるため、水管理を徹底して行ないましょう。

稲は出穂後25〜30日頃まで籾を充実させるため、多くの水分が必要で

す。田んぼの乾かし過ぎは品質低下につながるため水を切らさないようにしてください。しかし、水を溜め続けると今度は、根が酸欠状態になります。根の伸長は、出穂期頃までに終わり、老化が進む時期となります。根を健全に保つため間断灌漑で管理しましょう。

◆落水

落水の目的は、土を乾かし、コンバイン作業の効率を向上させることです。落水する時期は出穂後約30〜35日、稲刈りの約10日前を目安に行ないます。しかし、天候や田んぼの土壌条件(湿田、乾田)なども影響するため圃場条件をよく確認しましょう。

むやみに早く落水をし過ぎると、籾の肥大が悪くなり、未熟米(ヤセ米)、くず米、胴割米が増加します。早めの落水により田んぼが乾きすぎた場合は1〜2回に分けて入水する走り水をして土壌水分を維持することが重要です。

◆刈り取り適期

刈り取り時期は、天候や品種、生育状況によって異なります。実際には籾の熟れ具合を見て判断しましょう。

コンバインでの収穫は、穂全体の

野菜

タマネギ (播種栽培)

◆栽培品種の選定

タマネギは、一年を通して消費する最も身近な野菜です。家庭菜園での栽培、経営栽培とそれぞれですが、ご自身の目的に応じた種類・品種の選定が重要です。

◆栽培のポイント

●播種・育苗

発芽最適温度は20℃前後で、この温度内であれば一週間程度で発芽します。寒さには強いものの暑さに弱いので、播種時期を厳守しましょう。

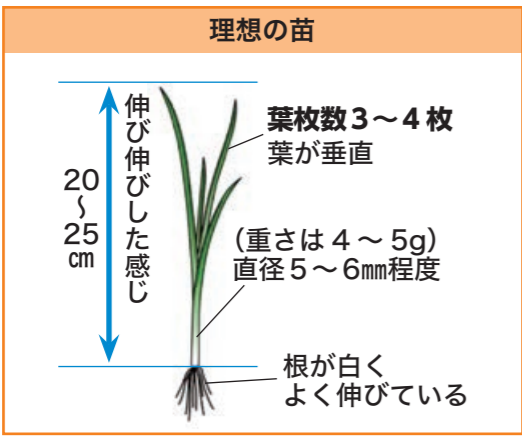
※当地の最適播種時期

9月20日以降

この季節を守れない場合、品質の良いタマネギ生産は望めません。播種は早すぎても遅すぎてもいけません。

1㎡当り堆肥を5kg、ようりん20g、やさい有機189を100g施します。

播種方法は条播がお勧めです。播種後、乾燥防止や雨でたたかれないように籾殻や切りわらなどを施すか、不織布などのベタがけ資材を利用しましょう。特に発芽が揃うま



では乾燥させないように灌水に十分注意しましょう。

発芽後は本葉2枚を目安に順次間引きを行ない、苗の間隔を10mm程度に仕上げます。

その後は雑草対策と根に酸素を供給する目的を兼ねて中耕し、倒伏軽減対策として軽く土寄せをすると良いでしょう。

なお、生育を揃えるための追肥を行ないます。育苗期間は、播種から55〜60日程度を基準としますが、育苗に自信が無い場合は苗を購入されることをお勧めします。

青刈率が5〜10%になった時期が刈り取り目安です。

◆乾燥調整のポイント

①生籾の変質防止
コンバイン収穫籾は変質しやすく、籾水分や気温が高いとさらに変質しやすくなります。刈り取り後は、4時間以内に通風乾燥します。

②乾燥温度と仕上げ水分

高速での継続乾燥は胴割れが発生しやすくなり、品質や食味を低下させる原因となるので毎時乾燥減率0.8%以下で乾燥します。乾燥機に張り込み後2時間程度は通風乾燥を行ない、水分ムラをできる限り解消してから加熱乾燥するとより安全です。適正な玄米水分目標は14.5%です。

余熱により、水分が変動する場合があります。余熱がなくなるまで冷ましてから再度水分測定し、適正水分になっているか確認しましょう。

◆台風対策

近年、地球温暖化等の影響で、台風の性質も大型化したり、進路が不規則になるなど大きく変わっています。この事に対応するため、台風発生時には次のような対策を講じてください。

●本圃の管理

定植日が決まったら、圃場準備に取り掛かりましょう。

①施肥

定植の2週間前に、1㎡当り完熟堆肥を5kg、石灰資材を100g、りん酸資材を50gおよびやさい有機189を120g施して後期耕うんし、高さ15cm、幅120cm程度の畝を作りまます。

追肥回数の削減や雑草対策として「たまねぎマルチ」の使用をお勧めします。

②定植

専用マルチを施す場合は間隔に合わせて定植、マルチを使用しない場合は株間10〜15cm・条間20cmを目安に定植します。定植後は活着を促すため灌水し、乾燥防止、霜害抑制のため籾殻等を施します。

広島中央地域本部で推奨している夏秋ナス収穫前の所得確保品目としても期待できます。この機会に是非栽培に取り組んでみませんか？

広島中央農機センター移転のお知らせ

広島中央農機センターは造賀(高屋ライスセンター)へ移転し、住所と電話番号が変更しています。ご迷惑をお掛けしますが、よろしくお祈りいたします。

【新住所】 東広島市高屋町造賀6659-4
☎0120-162-315
※携帯電話からもOK
【TEL】 082-430-2300
【FAX】 082-436-1600



①速やかな排水対策
台風による大雨が予想される場合は、排水路等に雑草やゴミなどが詰まらないよう、確認や補修を行ない、圃場内から速やかに排水できるように対策してください。

②水分蒸散の抑制対策

風台風が予想される場合は、葉からの急激な水分蒸散により葉先枯等の障害が発生しやすくなります。風台風の場合は蒸散を防ぐためできるだけ深水で管理してください。

③病害虫防除対策

中生品種等収穫まで日数がある水稲については、風や雨にさらされる事による病害虫の対策を講じてください。特に出穂期の強い風で穂が傷付くと「白穂」や「内穎褐変病」等が発生し、収穫量に大きく影響を及ぼすため、出穂後の基幹防除と併せ、補完防除により対策してください。

④速やかな収穫

早期コシヒカリや近年コシヒカリなどの収穫時期が早い品種については、登熟具合を入念に確認し、収穫が可能な圃場についてはできるだけ速やかに刈り取りましょう。

▶ Information お知らせ

采たれ！挑戦者
令和5年
出品者
募集！



第3回 お米コンテスト in 東広島

東広島市やJAひろしまなどは、東広島市産の主食用米の食味向上、地産地消の推進及びブランド化を推進するため、お米の食味コンテストを開催します。

参加資格 東広島市に住居もしくは事業所を有する農業者、農業者団体、法人

応募期間 令和5年9月29日(金)まで

出品米

応募点数 200点

- 令和5年産 東広島市産米、単独品種とします。
- 品種登録されているもの、または品種登録願が受理されているものに限りします。
- 1経営体につき5点までの出品が可能です。(複数出品の場合、栽培方法または品種が別の米に限りします)

申込先 ぶちうまいお米コンテストin東広島 事務局
(東広島市西条栄町8番29号 東広島市役所ブランド推進課内)
TEL: 082-426-3093

出品料 1出品につき2,000円とし、申込受付後にご案内する振込先に入金してください。(振込手数料は自己負担となります)

出品期間 令和5年10月2日(月)～10月27日(金)

提出物 申込された精米1kg及び栽培履歴の提出をお願いします。

提出先 JAひろしま広島中央地域本部
営農経済部営農販売課
(東広島市西条中央5丁目8-10)
TEL: 082-423-5913 FAX: 082-424-3933

葬祭会員募集キャンペーンのお知らせ

キャンペーン期間 令和5年9月30日(土)まで

広島中央地域本部葬祭センターでは、葬祭会員募集キャンペーンを実施中です。

キャンペーン期間中に入会の方には、直売所3店舗(とれたて元気市となりの農家店・となりの農家高屋店・となりの農家黒瀬店)で使える商品券1,000円分をプレゼントいたします。

入会金は真心コース2万円、安心コース1万円で、月々の掛け金や年会費は不要です。会員になると、もしもの際にお得な特典が多数あります。

まだ会員になられていない方は、この機会にぜひご入会をご検討ください。

詳しくは葬祭センターまでお問い合わせください。

【お問い合わせ】 葬祭センター ☎0120-927-490

東広島市
園芸センターより

新規就農者育成総合対策事業をご紹介します

新規就農を検討されている方を対象とした国の支援策です。

経営発展支援事業

次世代を担う農業者となることを志向する方に、就農直後の経営発展のために必要な機械・施設の導入等の取り組みを支援する制度。

【主な交付対象者の条件】

- ・就農時45歳以下
- ・認定新規就農者
- ・独立自営就農
- ・その他

【補助率・限度額等】

- ・補助対象事業費 1,000万円を上限
- ・補助率 国1/2、県1/4 ※その他条件あり

経営開始資金

次世代を担う農業者となることを志向する方に、就農直後の経営確立に資する経営開始資金を交付する制度。

【主な交付対象者の条件】

- ・就農時45歳以下
- ・認定新規就農者
- ・独立自営就農
- ・その他(農地取得など)

【補助率・限度額等】

- ・補助率 10/10
- ・支援額 年間150万円
- ・交付期間 3年間

申込・問い合わせ

東広島市園芸センター

TEL 082-433-4411

- ・条件によっては申請できない場合があります。
- ・また、予算の範囲内において、計画の審査等により採択されます。
- ・要件を満たせば必ず採択されるものではありません。
- ・農林水産省のホームページで詳細(主な交付対象者の条件、補助率・限度額、その他)をご確認いただき、園芸センターまでお問い合わせください。